

## 調査企画・分析メンバーによる調査結果の考察とメッセージ

信州大学教授 酒井 英樹

本調査では、指導で「重要だと思うこと」と「十分実行していること」の差を見ることができません。その中で、教師は、「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」ことが「とても重要」だと思いつつも、その機会を十分には作れていない実態があることがわかりました。しかし、すでに中学校で7割、高校で5割の先生が授業で行っている「教師によるsmall talk（英語による簡単な話）」なども生徒の「話す力」を伸ばす機会とすることができます。「small talk」の中では、日常的に生徒に英語で声をかけ、生徒との英語によるコミュニケーションの場をつくり、身近なところから生徒が英語を話す機会を作っていくことができます。先生自身も話す内容を考え、色々な表現を使ったりして生徒に見せていくということも大事なんだと思います。「スピーキング」というと、ディスカッションやディベートのようにレベルの高いものをできるようにすることを想定しがちですが、まず最初は英語で話すコミュニケーションの場を作って、短いところから話す機会を作る、そういうことが大切だと思います。

青山学院大学准教授 高木亜希子

昨年度行った「英語教員に対する聞き取り調査」（2014）※から導き出した5つのキーワード（「子どもに寄り添う」「自らの成長」「最善を求め続ける」「英語を使う経験」「変化」と、本調査で明らかにした「指導に影響を与えているもの」の上位に挙がっている項目はとても関連があります。しかし、その中でも「英語を使う経験」が指導に影響を与えている割合は2割弱という低い結果でした。将来、英語を使うイメージを生徒自身が持っていない現状とあわせて考えると、教師自身ももっとオーセンティックな「英語を使う経験」をし、その中で感じた思いなどを生徒に伝え、生徒自身が英語を使うイメージや話す活動への意欲を持つことにつながる必要があると考えられます。また、本調査では「授業の振り返り」についても調べています。振り返りを深めるためには、コルトハーゲン(2010)が挙げている、「思考」「感情」「望み」「行動」という4つの視点が重要だと考えられます。「振り返りなくして成長なし」と教師教育学では考えられていますが、「振り返り」は教師の成長、変容のために非常に重要なキーワードだと思います。

※分析結果は、本ダイジェスト版の19ページをご参照ください。



シンポジウムでの酒井先生



シンポジウムでの高木先生



シンポジウムでの重松先生



シンポジウムでの工藤先生

## 国分寺市立第二中学校校長 重松 靖

本調査結果から、教員が「授業で大切にしていること」として、中高ともに「楽しさ」が上位に挙がりました。これは、私も一番大事にしてきたことです。ただ、何のためにこの活動をしているのかという目的と合致した楽しさでなければいけないと思います。「現在進行形」を学ぶために、ジェスチャーゲームを盛り込んだ授業を見る機会がありました。生徒はジェスチャーを使って活発に活動し、授業を楽しんでいる様子でした。しかし、英語のインプットや生徒の発話は十分ではありませんでした。教師は、楽しいだけでなく、どうやって英語の力を高めるのか、いかに英語のインプットを増やし、アウトプットを豊かに行えるように導くのかということを考え工夫していかなければいけないと思います。また、英語の教員は、授業の中でただ単に知識を教えるだけでなく、英語を使ったらどんな世界が広がるのか、どんなやりがいがあるのかということも積極的に発信していくべきだと思います。そのことが、生徒が将来、英語を使って仕事をしたい、海外で働きたい、といった英語を使うイメージを持つことにもつながっていくのではないかと考えます。

## 玉川大学准教授 工藤 洋路

今回の調査結果から、授業でさまざまな活動が行われていることがわかりました。授業での活動は、予習や復習などの生徒自身の学習に反映されていくと考えられますが、中高生を対象とした調査※から、生徒が英語の授業のためにやっている勉強（予習・復習を含む）とCAN-DOディスクリプタによる生徒の自己評価（英語力）との関係を調べてみました。自己評価により上位群と下位群とに分けると、中高すべての学年で、下位群より上位群の方が、「自分の気持ちや考えを英語で書く」「自分の気持ちや考えを英語で話す」といったことを行っていました。また、「教科書本文を和訳する」「問題を解く」「英語の歌を聴いたり、歌ったりする」「英語音声の映画やテレビ番組を見る」といったことも下位群よりも行っています。つまり、上位群は、発展的な活動だけではなく、「和訳」なども含めてさまざまなことを行っていることがわかりました。生徒の英語力を上げるためには、生徒がさまざまな活動を体験し、その中で「自分の気持ちや考えを英語で書く」「自分の気持ちや考えを英語で話す」といった発展的なこともできるようにしていくことが大事なのだと思います。

※ 「中高生の英語学習に関する実態調査2014」

※ 2015年12月に開催した「上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2015 『話すこと』の指導と評価をどう始めるか? - 「中高の英語指導に関する実態調査2015」と実践事例から考える4技能時代の英語教育-」で、調査結果に関連して発表されたものを再編集したものです。

※ 写真は「上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2015」の際のものです。